

# 泉用水・雀谷川コース

## 潤いある泉用水「暮らしに息づく流れの歴史」

金沢の用水は、その界隈のまちなみに潤いと安らぎをあたえてくれます。泉用水もそのひとつです。用水や川沿いを歩きながら、まちなかにそっと隠れている自然を見つけてみましょう。

にし茶屋街 → 泉用水 → 泉八幡神社 → 旧北国街道 → 雀谷川 →  
寺町寺院群 → 野町もも公園 → 弥生さくら公園



## ●にし茶屋街

野町広小路から増泉方面に進みます。

金沢の3つの茶屋街のひとつ、にし茶屋街では、今も紅殻格子の家並みが続く情緒ある通りです。西茶屋資料館は、小説「地上」で有名な島田清次郎が青年期を過ごした「吉米楼」跡に建てられ、茶屋家屋の外観を再現したものです。

クランクした小路を曲がると用水があらわれます。



## ●泉用水

泉用水は、藩政初期からある農業用水で、旧米丸村増泉、旧三馬村泉・西泉の田畑を潤していたと伝えられています。犀川下菊橋の下流から取水し、にし茶屋街界限では、一橋ごとにデザインの違う市道橋が架けられています。

用水沿いに進みます。保育専門学園を過ぎて、左手の細い小路に入ります。

## ●泉八幡神社のイチョウ

イチョウは、火災時に水を吹くといわれ、神社、仏閣に植えるところが多く、この泉八幡神社の境内でも9本のイチョウがあり、大木特有の「ちち」というきこん気根（地上部から空気中に出る植物の根）がみられます。黄葉時期は、境内が明るさを増したように感じられ、それが落葉すると黄金の絨毯じゅうたんを敷き詰めたように、晩秋ならではの自然の趣おもむきを創出しています。

## ●街道沿いを歩く

泉八幡神社前の通りは、かつての北国街道。街道沿いには今も、大小の古い町家が並び建ち、心を癒いやしてくれる素朴さがあります。

念西寺は、俳人・加賀の千代女が5～7年あまり生活していたことで知られ、山門右手の千代尼塚が、歴史を偲ばせます。本堂内には珍しい井戸があり、千代尼の由緒にちなんで「朝顔の井戸」と呼ばれています。

遠くからでも樹林が眺められるのは、国造神社こくぞうじんじや。大イチョウが印象的です。境内に泉用水が流れ込み、長閑な雰のどか囲気を漂わせています。

## ●雀谷川と雀橋

国造神社から南大通りを渡り、弥生のまちを横断します。通りのつきあたりから川音が聞こえてきます。

雀谷川は、長坂用水の分流のひとつで、伏見川へ合流します。この境界はまだ昔の面影をとどめており、峡谷にも似た風景の中を流れゆく清々しい水の姿に心和みます。

雀谷川の旧鶴来往還に架かる橋は雀橋と呼ばれています。今から100年以上前に造られ、市内では珍しい赤煉瓦あかれんがを積み重ねた、アーチ型の小さな橋です。



## ●寺院群の花緑

通りを野町方面、寺町寺院群へと歩を進めます。

「椿の寺」としても知られている林幽寺には、ツバキの名花「雛侘助ひなわびすけ、雛鶴ひなづる」の原木が大切に保存されていて、11月頃には美しい花を咲かせます。

しばらく進むと、ひときわ目を惹く樹影があらわれます。開禅寺のモチノキです。モチノキは成長が遅く、病気になりやすいので、15mもの高さの大木はきわめて貴重です。

また、本覚寺の樹林は、本堂後にあるタブの大木が見事で、大地を掴むように大きく根張りする姿は力強さを感じます。

龍淵寺の境内は、深緑で遮光され、一瞬、まちなかにいることを忘れさせてくれるような、落ち着いた雰囲気にあたえてくれます。590本以上のスギ、アカマツ、ケヤキ、カシなどが静閑な佇まいを導き出しています。

## ●公園を巡って

開禅寺のモチノキを土堀越しにみながら、野町も公園へ向かいます。

野町もも公園は、平成16年、市民提案型公園として誕生しました。サザンカ、ハナモモ、ハナミズキなどがみられます。

弥生さくら公園は、旧金沢气象台跡地で、サクラの開花宣言標準木であった名木「ソメイヨシノ」やシダレザクラ、ヒガンザクラなどがみられます。

四季折々に、公園の花緑を楽しんでみませんか。

